

令和2年度（2020年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	地理歴史	科目（単位数）	日本史A（2）	学年	2	類型	文理共通
学習目標	①国際政治の展開と関連づけた日本近現代史の基礎的知識の習得。②国際社会において主体的に平和を希求する日本人としての意識を涵養する。③巨視的・微視的視座を往還しつつ思考する力や、それを基盤とする柔軟な思考力の涵養。④巨視的視座の獲得による、偏執的な自国中心的思考の排除。さらに、我が国の「伝統」を近代以降にのみ求めないようにする態度の育成。						
期間	単元（学習内容）	学習の到達目標				自己評価	
年度初～ 1学期 中間考査	【注意】新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）への感染症（COVID-19）の拡大状況によって、授業進度は大きく変動する可能性は十分残っていることには留意されたい。 ①開国～幕末期、明治維新 ②近代国家の形成	①②幕末・維新期の混乱と幕府・明治政府の諸施策について、微視的に理解しつつ、明治政府の諸施策に通底する目標とは何か、考察する。 ②明治憲法の制定過程及びその内容に係る学習を通じ、明治憲法体制が「無責任体制」と呼ばれる所以を理解する。（その理解が、敗戦に至る過程の理解に寄与する。）				取組	A B C D
1学期中間～ 期末考査						理解	A B C D
1学期期末～ 2学期 中間考査	③国際関係の推移と近代産業の発展 ④第一次世界大戦と日本	③条約改正交渉の展開及び20世紀初頭の政治史・外交史の学習を通じ、政治史・外交史が密接に関連することを理解する。また、明治期における産業発展の光と影について学び、当時の社会の諸相について考察する。				取組	A B C D
2学期中間～ 期末考査	④第一次世界大戦と日本 ⑤第二次世界大戦と日本	④第一次世界大戦及び戦後体制への日本の関わりを通じ、日本の国際的地位が急上昇する過程を理解する。大正～昭和期において頂点に達した政治の民主化の過程を理解する。市民文化の諸相を学ぶ。 ⑤経済危機（恐慌の連続）、外交危機（国際的孤立の深化）、政治危機（政党政治の危機と暴力装置（実力組織）の政治関与強化）が複合し、非常時に至った過程を理解する。また、多様性を排除する社会がいかに人類にとって危険・不幸なものかを体感する。				取組	A B C D
2学期期末～ 3学期 学年末考査	⑤第二次世界大戦と日本 ⑥日本の再出発	⑤途中、ファシズムが日本を席卷する様子を（間接的に）感得する機会を設ける。 ⑥ファシズムの軛から解放された国内の諸相と、占領軍の思惑や国際情勢に翻弄された戦後政治史の一端を理解し、さらに社会の諸相について学ぶ。				取組	A B C D
3学期 学年末考査～ 年度末	⑥日本の再出発 ⑦独立後の政治と経済の発展	⑦55年体制の確立と、池田内閣によって安定化した保守政権下の政治状況を概観し、高度経済成長期の実態と国民生活に及ぼした影響について学ぶ。				取組	A B C D
使用教材 （教科書・副教材）		教科書 『高校日本史A 新訂版』（実教出版） 副教材 授業傍用として『最新日本史図表 二訂版』（第一学習社）、『改訂版 日本史Aノート』（第一学習社）、『日本史用語集』（山川出版社）の3冊、演習用として『改訂版 4ステージ演習ノート』（数研出版）を指定する。					
学習方法		①【最重要】毎回、指定箇所を予習した上で授業に臨む。授業は、予習を前提として行われる。 ②教科書を音読する。音読は、自己の現状を認識する重要な手法である。 ③授業（や家庭学習）で、各歴史用語間にどのような関係があるのか（または、関係がないのか）把握する。					
評価方法		①定期考査（80％） ②平常成績（20％） 定期考査以外の実績等は②の算出に利用される。また、授業者・出題者の内容の誤りを指摘できた場合は、②にさらに加点する。					

## 令和2年度（2020年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	地理歴史	科目（単位数）	日本史 B（4）	学年	3	類型	文 I
----	------	---------	----------	----	---	----	-----

学習 目標	①「過去」に真摯に向き合い学ぶ姿勢と、未来を展望する力の涵養。②自国の歴史を総合的に俯瞰する力の涵養。③身近な地域社会の歴史に関する関心の喚起。④巨視的・微視的視座を往還しつつ思考する力や、それを基盤とする柔軟な思考力の涵養。⑤巨視的視座の獲得による偏執的な自国中心の思考の排除と、自国の伝統を悠久たる歴史に求める意識の喚起。
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	<p>【注意】新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）への感染症（COVID-19）の拡大状況によって、授業進度は大きく変動する可能性は十分残っていることには留意されたい。</p> <p>①日本のあけぼの</p>	<p>①日本列島における旧石器、縄文、弥生期の特徴を理解する。特に弥生期においては、大陸との関係について留意する（文明の伝播及び小国連合、邪馬台国について）。</p> <p>①ヤマト政権の積極的な対外政策を、その国内統治と併せて理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
1 学期中間 ～期末考査	<p>②古代国家の形成</p> <p>③古代国家の展開</p> <p>④宮廷貴族社会の成立</p> <p>⑤武家政権の成立</p>	<p>②厩戸（聖徳太子）政権から天武・持統朝までの各政権に係る共通点・相違点の精確な理解をはかり、その「共通点」の成果である律令体制について、民衆の負担と併せて理解する。</p> <p>②仏教の興隆が国内（文化面に限らない）に及ぼした影響を理解する。</p> <p>③④⑤王権の変遷と、武士の台頭に至る政治史の展開（他氏排斥～摂関政治～院政～平氏政権～鎌倉幕府）を、論理的に理解する。</p> <p>③④末法到来による仏教の変化を理解すると同時に、貴族の信仰・風習を理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	<p>⑤武家政権の成立</p> <p>⑥中世社会の展開</p> <p>⑦幕藩体制の確立</p>	<p>④⑤武士の台頭から武家政権の成立までの過程を理解する（特に、鎌倉幕府の性格とその変化に留意する）。</p> <p>⑤平安末～鎌倉期における仏教の変化を軸とした文化の展開を理解する。</p> <p>⑥⑦室町～江戸初期に係る武家政治の展開について、精確に理解しつつ、概観できるようになる。</p> <p>⑥⑦武家政権により荘園公領制が動揺・消滅する過程を理解する。</p> <p>⑥⑦文化面における仏教の位置付けの変化を意識しつつ、室町、桃山、</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
2 学期中間 ～期末考査	<p>⑦幕藩体制の確立</p> <p>⑧幕藩体制の展開</p>	<p>⑥⑦室町～江戸初期に係る武家政治の展開について、精確に理解しつつ、概観できるようになる。</p> <p>⑥⑦武家政権により荘園公領制が動揺・消滅する過程を理解する。</p> <p>⑥⑦文化面における仏教の位置付けの変化を意識しつつ、室町文化、桃山文化、江戸初期の文化を概観する。</p> <p>⑧安定した幕藩体制下の政治史と、諸産業・経済の発展について理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
2 学期期末 ～年度末	<p>⑧幕藩体制の展開</p> <p>⑨幕藩体制の動揺</p> <p>⑩歴史の論述</p>	<p>⑨幕藩体制の動揺をもたらした要因を理解する。</p> <p>⑩自らテーマを設定し、史料・資料を収集して小論を作成する。時間の余裕があれば、ゼミ形式で批評する。</p> <p>【注意】この時期は、⑩の授業時間を優先的に確保する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>

使用教材 (教科書・副教材)	教科書 『新日本史Ｂ 改訂版』(山川出版社) 副教材 授業傍用として『新日本史ノート 改訂版』及び『日本史用語集』(ともに山川出版社)、『最新日本史図表』(第一学習社)の３冊、演習用として『４ステージ演習ノート』(数研出版)を指定する。
学習方法	①【最重要】教科書を音読する。 <u>授業は、予習を前提として行われる。</u> ②重要歴史用語を把握し、内容を理解する。 ③授業や家庭学習で、各歴史用語間にどのような関係があるのか(または、関係がないのか)把握する。
評価方法	①定期考査(80%) ②平常成績(20%) 定期考査以外の実績等は②の算出に利用される。また、授業者・出題者の内容の誤りを指摘できた場合は、②にさらに加点する。

## 令和2年度（2020年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	地理歴史	科目（単位数）	日本史 B（4）	学年	3	類型	文Ⅱ・理系
----	------	---------	----------	----	---	----	-------

学習 目標	①「過去」に真摯に向き合い学ぶ姿勢と、未来を展望する力の涵養。②自国の歴史を総合的に俯瞰する力の涵養。③身近な地域社会の歴史に関する関心の喚起。④巨視的・微視的視座を往還しつつ思考する力や、それを基盤とする柔軟な思考力の涵養。⑤巨視的視座の獲得による偏執的な自国中心の思考の排除と、自国の伝統を悠久たる歴史に求める意識の喚起。
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	<p>【注意】新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）への感染症（COVID-19）の拡大状況によって、授業進度は大きく変動する可能性は十分残っていることには留意されたい。</p> <p>①日本のあけぼの</p>	<p>①日本列島における旧石器、縄文、弥生期の特徴を理解する。特に弥生期においては、大陸との関係について留意する（文明の伝播及び小国連合、邪馬台国について）。</p> <p>①ヤマト政権の積極的な対外政策を、その国内統治と併せて理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
1 学期中間 ～期末考査	<p>②古代国家の形成</p> <p>③古代国家の展開</p> <p>④宮廷貴族社会の成立</p> <p>⑤武家政権の成立</p>	<p>②厩戸（聖徳太子）政権から天武・持統朝までの各政権に係る共通点・相違点の精確な理解をはかり、その「共通点」の成果である律令体制について、民衆の負担と併せて理解する。</p> <p>②仏教の興隆が国内（文化面に限らない）に及ぼした影響を理解する。</p> <p>③④⑤王権の変遷と、武士の台頭に至る政治史の展開（他氏排斥～摂関政治～院政～平氏政権～鎌倉幕府）を、論理的に理解する。</p> <p>③④末法到来による仏教の変化を理解すると同時に、貴族の信仰・風習を理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	<p>⑤武家政権の成立</p> <p>⑥中世社会の展開</p> <p>⑦幕藩体制の確立</p>	<p>④⑤武士の台頭から武家政権の成立までの過程を理解する（特に、鎌倉幕府の性格とその変化に留意する）。</p> <p>⑤平安末～鎌倉期における仏教の変化を軸とした文化の展開を理解する。</p> <p>⑥⑦室町～江戸初期に係る武家政治の展開について、精確に理解しつつ、概観できるようになる。</p> <p>⑥⑦武家政権により荘園公領制が動揺・消滅する過程を理解する。</p> <p>⑥⑦文化面における仏教の位置付けの変化を意識しつつ、室町、桃山、江戸初期各文化を概観する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
2 学期中間 ～期末考査	<p>⑦幕藩体制の確立</p> <p>⑧幕藩体制の展開</p>	<p>⑥⑦室町～江戸初期に係る武家政治の展開について、精確に理解しつつ、概観できるようになる。</p> <p>⑥⑦武家政権により荘園公領制が動揺・消滅する過程を理解する。</p> <p>⑥⑦文化面における仏教の位置付けの変化を意識しつつ、室町文化、桃山文化、江戸初期の文化を概観する。</p> <p>⑧安定した幕藩体制下の政治史と、諸産業・経済の発展について理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
2 学期期末 ～年度末	<p>⑨幕藩体制の動揺</p> <p>⑩問題演習</p>	<p>⑨幕藩体制の動揺をもたらした要因を理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>

使用教材 (教科書・副教材)	教科書 『新日本史Ｂ 改訂版』(山川出版社) 副教材 授業傍用として『新日本史ノート 改訂版』及び『日本史用語集』(ともに山川出版社)、『最新日本史図表』(第一学習社)の３冊、演習用として『４ステージ演習ノート』(数研出版)を指定する。
学習方法	①【最重要】毎回、指定箇所を予習した上で授業に臨む。 <u>授業は、予習を前提として行われる。</u> ②重要歴史用語を把握し、内容を理解する。 ③授業や家庭学習で、各歴史用語間にどのような関係があるのか(または、関係がないのか)把握する。
評価方法	①定期考査(80%) ②平常成績(20%) 定期考査以外の実績等は②の算出に利用される。また、授業者・出題者の内容の誤りを指摘できた場合は、②にさらに加点する。

## 令和2年度（2020年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	地理歴史	科目（単位数）	世界史 A（2）	学年	2	類型	文理共通
学習目標	近現代史を中心とする世界の歴史の大きな枠組みと流れを理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を養う。						
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標			自己評価	
年度初～ 1 学期 期末考査	第 2 章 結びつく世界 2 近世ヨーロッパの形成と発展		・大航海時代以降、ヨーロッパ主導の世界の一体化がどのようにすすんでいったかを考察する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	2 近世ヨーロッパの形成と発展  第 3 章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 1 革命の時代の到来		・16～18 世紀のヨーロッパにおける主権国家の形成を理解する。 ・17～18 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出の動向を理解する。 ・イギリス産業革命からヨーロッパの 1848 年革命までの「環大西洋革命」を理解する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2 学期中間 ～期末考査	2 自由主義と国民主義の進展 第 4 章 アジア諸国の変貌		・環大西洋革命を経てのヨーロッパの国民国家の形成と自由主義の進展を理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアジア進出に対して、アジア諸国がどのような対応をとったかを比較・考			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
2 学期期末 ～3 学期 学年末考査	第 5 章 世界戦争と平和		・20 世紀初頭の欧米列強による世界分割の特質を理解する。 ・20 世紀前半に 2 つの世界大戦がなぜおきたのかを考察し、その経過と結果を理解する			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
3 学期 学年末考査 ～年度末	第 6 章 三つの世界の形成 第 7 章 グローバル化する世界		・冷戦期の展開と特質を理解する。 ・1970 年代以降の世界の多極化・グローバル化を理解し、現代との関連を考察する。			取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D	
使用教材 (教科書・副教材)		「改訂版 要説世界史 A」（山川出版社） 「世界史 A 読本 改訂版」（山川出版社） 「最新世界史図説 タペストリー」（帝国書院）					
学習方法		①こんにちの世界の現状を知るために、近現代史を重点的に学ぶ。 ②世界史の視点から、過去の出来事と現代との関連性を探求する。 ③教科書の基礎的・基本的事項を確実に覚える。					
評価方法		①学期成績は、中間・期末考査の成績と授業中の取り組みや課題の提出状況等の平常成績をもとに評価する。 ②学年成績は、1～3 学期までの学期成績を平均し、その平均の評点によって 5 段階で					



## 令和2年度（2020年度） 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	地理歴史	科目（単位数）	地理A（2）	学年	2	類型	文理共通
----	------	---------	--------	----	---	----	------

学習 目標	世界的な広い視野に立ち、人々の生活の地域的特色やその動向を、自然環境及び社会環境との関わり合いにおいて理解し、現代世界に対して地理的な基礎的認識を養う
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初 ～1学期 期末考査	○世界の人々を取りまく地理的環境 ・世界的視野から見た地形 ・さまざまな地形と生活	・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、地形と気候の面から大きくとらえる。 ・世界に見られるさまざまな地形と、人間生活とのかかわりについて学習する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
	○世界の人々を取りまく地理的環境 ・世界的視野から見た気候 ・世界の気候と生活	・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1学期期末 ～2学期 中間考査	○地球儀や地図でとらえる現代世界 ・球面で世界を考えよう ・世界地図の特徴を知ろう ・世界観の広がりとも地図	・グローバル化が急速に進む現在では、平面認識の世界から、球面で考えていかなければならないことを学習する。 ・世界観の広がりとともに地図に描かれる内容が変化してきたことを理解し、現在見られる衛星画像や地理情報システムなど新しい地図表現の役割を理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期中間 ～期末考査	○地球儀や地図でとらえる現代世界 ・国家の領域と領土問題 ・国家をこえた結びつき ・交通機関の発達と縮小する地球世界 ・情報・通信で一体化する世界 ・人・「もの」・資本で結びつく世界	・国家とは何かを学習し、交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2学期期末 ～3学期 学年末考査	○日常生活と結びついた地図 ・身近な地図を読みこなそう ・地図表現について考えよう ・地形図を活用しよう ○自然環境と防災 ・日本の自然と生活	・地理の言語としての地図、作成者の意図により取捨選択されている地図について理解する。 ・GISや帰宅支援マップ、3次元地図、触地図などさまざまな種類の地図が発行されていることから、目的に応じた地図選択の重要性を考察する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
3学期 学年末考査 ～年度末	○世界の諸地域の生活・文化と環境 ・東アジア ・東南アジア ・南アジア ・北アフリカ・西アジア・中央アジア ・ 中南アフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・北アメリカ ・中央・南アメリカ ・オセアニア	・世界の人々がもつ民族性や言語、宗教の多様性を理解する。 ・世界の農業・鉱工業について、発達過程を地理的環境との関連で理解し、現在の状況について学習する。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	高等学校地理A（第一学習社）、新詳高等地図（帝国書院） 新編地理資料（東京法令出版）
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書内容（言語や歴史、現代社会の状況等）の把握</li> <li>・地図帳での位置や統計の確認</li> <li>・統計表等、資料による理解</li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査（中間・期末等）</li> <li>・提出物</li> <li>・授業活動への取り組み</li> </ul>



教科	公民	科目（単位数）	現代社会（２）	学年	1	類型	全クラス
----	----	---------	---------	----	---	----	------

学習 目標	<p>基礎力の充実を図り、現代の社会と人間についての理解を深める。</p> <p>現代社会の諸課題について、政治・経済・社会・文化・倫理など様々な観点から探求し、現代社会に対する興味・関心を高める。</p> <p>現代社会について多角的な視点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目させ、いかに生きるかを主体的に考察させる。</p>
----------	---

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1学期 期末考査	<p>○個人の尊重と法の支配</p> <p>・民主政治、基本的人権、政治体制</p> <p>○現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>日本国憲法</p>	<p>・法の支配と法や規範の意義及び役割について理解させ、法に関する基本的な見方や考え方を身に付ける。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
1学期期末 ～2学期 中間考査	<p>○現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>・日本国憲法、平和主義、基本的人権</p> <p>・国民主権、内閣、裁判所</p> <p>・地方自治、世論形成</p>	<p>・日本国憲法の基本的原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
2学期中間～ 期末考査	<p>○国際政治の動向と日本の役割</p> <p>・国家主権、国際連合、国際社会</p> <p>・地域紛争、国境、領土問題</p> <p>○現代の経済社会と私たちの生活</p> <p>・経済社会と経済体制、市場経済</p> <p>・景気変動、政府の経済的役割</p>	<p>・国際法の意義と役割について考察させ、国際的な相互依存関係が深まる中で国際連合など国際的な組織の果たす役割が増大していることを理解する。</p> <p>・有限で希少な資源の効率的配分をもたらす市場の仕組みについて理解する。</p> <p>・政府の経済的役割と租税について理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
2学期期末 ～3学期 学年末考査	<p>○現代の経済社会と私たちの生活</p> <p>・金融機関、戦後の日本経済</p> <p>・雇用と労働、公害と環境保全</p> <p>・消費者保護、社会保障</p>	<p>・金融の意義や役割を理解させるとともに、金融政策の目的と手段について考察できる。</p> <p>・労働問題について理解する。</p> <p>・公害と環境保全について理解する。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>
3学期 学年末考査 ～年度末	<p>○ともに生きる社会をめざして</p> <p>・税と社会</p> <p>・人口問題と私たちの未来</p>	<p>・論理コミュニケーションをふまえて、現代社会の諸課題に対して論理的な思考、表現などができる。</p>	<p>取組 A B C D</p> <p>理解 A B C D</p> <p>関心 A B C D</p>

使用教材 （教科書・副教材）	高等学校改訂版現代社会（第一学習社）、改訂版現代社会ノート（第一学習社）、最新図説現社（浜島書店）
学習方法	<p>・教科書内容（語句や制度、現代社会の状況等）の把握</p> <p>・図説による統計や解説の確認</p>
評価方法	<p>・定期考査（中間・期末等）</p> <p>・提出物</p> <p>・授業活動への取り組み</p>

学習 目標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成、人間としての在り方生き方などについて考えさせる。また、人格形成に努める実践力や主体としての自己を確立させ、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
----------	--

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	○ 現代に生きる自己の課題 1 人間とは何か 2 青年期の意義 3 自我の発見と自己形成 4 人格の形成と生きがい	・何をもって人間というのかを考えることができる。 ・青年が負っている課題について考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	○ 人間としての自覚 1 古代ギリシアの思想 2 キリスト教 3 イスラーム 4 古代インドの思想と仏教 5 中国の思想	・ソクラテス・プラトン・アリストテレスなどの思想家が求めた人間観、国家観、倫理観について理解できる。 ・宗教が人間に対して持つ意味について考察するとともに、自分なりの意見を表明できるようになる。 ・ユダヤ教の歴史と特徴、イエスの教えを理解するとともに、イエスの活動の意味を考察することができる。 ・現代イスラームの実情について関心を持ち、それについて調べることができる。 ・ウパニシャッド哲学の教義やブッダの思想について理解できる。 ・中国の思想に関心を持ち、諸子百家出現の背景や儒家の思想、荘思想が理解できる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	○ 西洋近代の思想 1 理性への信頼と人間の尊厳 2 自然・科学技術と人間 3 個人・社会と自由 4 民主社会の倫理	・ルネサンスと宗教改革の意義を理解できる。 ・デカルト・ベーコンの思想の理解を通して、科学的思考の意味について考えることができる。 ・社会契約説の思想家、カント、ヘーゲルの思想の理解を通して、自由、法と道徳とは何かを考える。 ・ベンサム、ミル、プラグマティズムの思想家の思想を学び、幸福の問題や民主主義、教育について考える。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	○ 現代の思想 1 現代思想の流れ 2 現代社会と生き方 ○ 日本の伝統思想と東洋思想 1 日本の風土と古代日本人 2 仏教の受容と展開 3 儒学の需要と国学の発達	・キルケゴールやニーチェ、サルトルなどの実存主義者の思想を理解し、主体的に生きることの意味について考える。 ・構造主義やフランクフルト学派などの理解を通して、野蛮と文明、理性と非理性について考える。 ・日本の風土、神代神話、古代日本人の考え方について考察できる。 ・日本の仏教の受容とそれぞれの時代における仏教の役割について理解する。 ・儒学の受容とそれぞれの学派の主張を理解できる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～年度末	○ 西洋思想と近現代の日本思想 1 近代の日本思想 2 国際社会を生きる日本人	・欧米化された現代日本社会を振り返り、明治以降の日本の歩みに関心を抱くことができる。 ・啓蒙思想、キリスト教思想、伝統思想、近代文学、大正デモクラシーについて理解し、その思想的特徴を考察できる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D

使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「倫理」（数研出版） 資料集：「最新図説 倫理」（浜島書店） 問題集：「倫理 整理ノート」（数研出版）
学習方法	○ 教科書をしっかり読み、整理ノートに重要事項を書き込む。 ○ 先人の思想に関心を持ち、自分の生き方について考える。
評価方法	○ 定期考査 ○ 提出物 ○ 授業態度（出欠状況を含む）

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標	自己評価
年度初～ 1 学期 中間考査	○ 経済活動の意義と経済体制 1 人間と経済活動 2 資本主義経済の発展と変容 3 経済活動の主体	・資本主義経済と社会主義経済のしくみと特徴を比較し、理解できる。 ・資本主義経済の歴史的発展過程を把握して、現状を認識できる。 ・経済活動の主体が、現実にとどのような活動をしているか考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期中間 ～期末考査	○ 現代経済のしくみ 1 市場経済のしくみ 2 物価の動向 3 国民所得と経済成長	・市場機構を理解して、市場経済に関する基本的知識を理解できる。 ・物価や景気の動向に対して、その変動の背景を推察して考えることができる。 ・国民所得や経済成長、景気循環の要因を理解し、有効な経済政策を考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
1 学期期末 ～2 学期 中間考査	4 財政のしくみと租税 5 金融のしくみと働き  ○ 日本経済と福祉の向上 1 戦後日本経済のあゆみ	・財政、租税と金融のしくみとその役割について理解できる。 ・日常の経済生活における、財政や金融の具体的な働きを考えることができる。 ・高度経済成長からの産業構造の変化を資料等で確認し、その問題点について討論することができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期中間 ～期末考査	2 中小企業と農業・食料 3 公害防止と環境保全 4 消費者問題と消費者保護 5 労使関係と労働市場 6 少子高齢社会と社会保障	・中小企業の企業活動について考えることができる。 ・公害問題について、その歴史を振り返り、その取組みを確認することができる。 ・消費者問題の具体例を挙げ、消費者のあり方について考えることができる。 ・日本の労使関係を理解し、労働問題について考えることができる。 ・日常に見られる高齢化や少子化の具体的な影響について考えることができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D
2 学期期末 ～年度末	○ 国際経済の動向 1 貿易と国際収支 2 国際経済のしくみ	・ボーダーレス化やグローバル化を、身近に話題にすることができる。 ・貿易のしくみと国際収支の各項目の内容を理解することができる。	取組 A B C D 理解 A B C D 関心 A B C D